＼ 第二弾！ ／

町田第三小学校跡地活用ワークショップ 2025

まちさんかいぎ 2

開催レポート

～町三小跡地の「日常の使い方」と「災害時の使い方」を知ろう！～

1 月 17 日（土）、町田第三小学校体育館にて、「まちさんかいぎ 2 」を開催しました。昨年 10 月に開催した「まちさんかいぎ」に続く第二弾として、今回は『町三小跡地の「日常の使い方」と「災害時の使い方」を知る』ことをテーマに、ゲストの講演や体験を通して町三小の将来をみんなで考えました。

足元が冷える冬の体育館での開催でしたが、大人 25 名、子ども 10 名の計 35 名もの参加者に集まっていただき、今回もにぎやかな会となりました。

当日のプログラム

当日は、大人と子ども、それぞれのプログラムで町三小跡地の「日常の使い方」と「災害時の使い方」を考えました。

大人の企画は、「日常も災害時もみんながつながれる場となるために必要なことを学ぼう！」をテーマとして、東京都立大学の讃岐先生の進行のもと、「日常の使い方」と「災害時の使い方」の両面で、それぞれゲストに講演いただき、参加者とも意見交換を通して、理解を深めました。

子どもの企画は、「日常の使い方」として、跡地でできそうな遊びを実際に体験、「災害時の使い方」として、防災食づくりと防災用テントの組み立て体験を行いました。

■当日のプログラム

①はじめに（資料確認、当日のプログラム）	
②町三小の次の使い方について、③まちさんかいぎ 2 の目的説明	
大人企画	**子ども企画**
進行：讃岐先生	子どもは移動
④萩野さんのお話	○防災テント体験 ○防災食の試食 ○居場所イメージの体験
⑤コウダさんのお話	
⑥ブレイクタイム―防災食の試食	
⑦意見交換	
⑧子どもたちにも感想を聞いてみよう！	
⑨町田市からのお知らせ、⑩集合写真	
終了（アンケート等）	

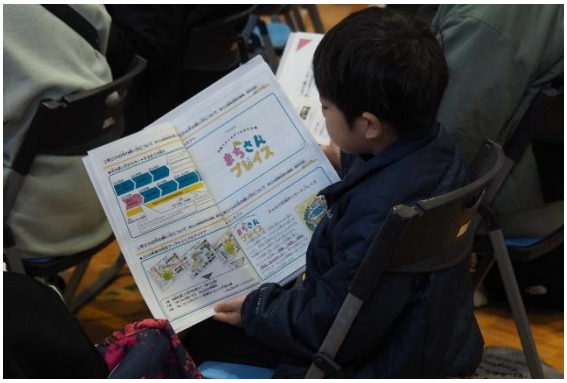
「まちさんかいぎ２」の目的

町田市から町三小跡地活用の検討状況や「まちさんかいぎ２」の目的などをお話しました。2024 年度に行われたワークショップなどを踏まえて、「活動でみんながつながれる場　まちさんプレイス」というコンセプトと日常の敷地の使い方（３つのエリア分け）、災害時には地域の防災拠点となることを説明しました。

その内容を町三小跡地活用の方向性として、誰でも簡単にイメージできるよう、「町田第三小学校跡地活用コンセプトブック」の作成を進めていることも紹介しました。

今回の「まちさんかいぎ２」は、そのコンセプトと敷地の使い方を前提に、“跡地が日常も災害時もみんながつながれる場となるために必要なこと”を、二人のゲストの講演や体験を通じて学んでいくことが目的とお伝えしました。

参加者のみなさんは手元の資料にメモを取りながら、じっと前方のスクリーンを見つめるなど、終始真剣に耳を傾けていただきました。



【大人企画】

日常も災害時もみんながつながれる場となるために必要なことを学ぼう！

東京都立大学 建築学科 助教　讃岐亮 先生

ここからは大人と子どもに分かれてワークショップを進めていきました。

大人の企画は「日常も災害時もみんながつながれる場となるために必要なことを学ぼう！」と題し、東京都立大学の讃岐亮先生にコーディネートしていただき、ゲストの講演と意見交換を行いました。讃岐先生は、これまで多摩市、相模原市、杉並区などの自治体で、学校統合による跡地の活用で、地域の方と一緒に検討を進めたご経験があります。

「今回のワークショップでは日常と災害時のそれぞれの使い方について学びながら、２つのテーマに共通する内容などをここにいるみなさんと一緒に考えていきたいと思います。」と始まり、講演者の萩野さんとコウダさんについて、「日常の使い方として、市民はどのように関わることができるのか、公園などの公共空間活用の仕組みづくり関わっていらっしゃる萩野さんにお話をしてもらいましょう。また、小学校の跡地を考える時に、防災というテーマはとても重要。町田市防災アンバサダーのコウダさんのお話は貴重な機会となると思います。」と紹介いただいて、大人の企画がスタートしました。

ひろばなどを日常的に使うみんなの居場所にしよう！

まちなか空間を色濃くデザインするための視座と作法

(株)connel 代表取締役　萩野正和 さん

◇ 公共空間を使いこなすためには

はじめに、薬師池四季彩の杜のブランド企画や公園の公共空間活用を通じてまちづくりに携わる萩野さんに、「ひろばなどを日常的に使うみんなの場所にしよう！」をテーマに講演いただきました。

萩野さんは、「近年は公共空間において『つかう』という考え方がまちづくりの中で重要になっています。町三小跡地もみんなに使ってもらえるように、どのように地域を巻き込んでいくか、自然と人がその場に集うようにするにはどのような仕掛けが必要かを考える必要があります。」というお話からスタートしました。

千葉県にある柏駅前では、公共空間である歩行者デッキで、市民がやりたいことを気軽に取り組める仕組みをつくってきたことや、松戸市の公園では、公園を『どこでもシアター』と名づけ、市民が自由にパフォーマンスできるイベントを試行しながら人が集まる公園づくりをしてきたことを、写真を交えて紹介いただきました。

「いろいろな人を巻き込むような仕掛けをたくさんつくることで、日常的に使ってもらえる場所となっていく。」といった、今後の町三小跡地の使い方を考える上で大事なポイントとなるお話をしていただきました。

災害時の避難生活をイメージしよう！

災害時の過ごし方と、心を守る選択肢 ～避難所・在宅避難・そして地域とのつながり～

防災士、町田市防災アンバサダー　コウダミキ さん

◇ いつもの場所がもしもの安心に

続いて、防災とアウトドアを掛け合わせた講演や防災イベントなどを行っているコウダさんには、避難生活をテーマに講演いただきました。町三小跡地の避難施設の大きさが今までと比べてコンパクトになるという町田市の説明を受けて、その場合の避難生活について、参加者がイメージできるようお話しいただきました。

コウダさんからは、「避難施設は、命を守る大切な場所であるものの、冬は寒く夏は暑い、プライバシーがほとんどないなど不便なことも多い。その一方で、自宅で安全に過ごせるのであれば、在宅避難はプライバシーが守られる＝心の安定といったメリットがある。」といったお話があり、避難生活は避難施設だけでなく、在宅避難も選択肢の１つとして考えておく必要があると、事例を交えながら説明いただきました。

「避難施設は、自宅の安全が確保でき在宅避難ができるものの、電気・水・トイレが使えなくなることやスマホがつながらない、充電できないという状況になった時、水や物資がもらえる場所、災害情報をえられる場所、地域とつながれる場所としての役割を担っている。そんな場所を災害が起きて初めて行く場所とせずに、日常的に使っている場所にしておくと、いざという時に安心」とお話しいただきました。

意見交換　（参加者から萩野さん、コウダさんへの質問）

参加者のみなさんには、お二人の講演を聞きながらふせんに質問を書いていただき、会場全体でその内容を共有しました。みなさんからいただいた質問をベースに讃岐先生から萩野さん、コウダさんに質問していただき、お二人がそれに答える形で会が進行しました。最後は、お二人から出たお話を踏まえて、讃岐先生にまとめていただき終了しました。

○継続性について

Q. ひろばなどの公共空間が継続して使われるためのノウハウ（ルールづくりのコツ、使われない場所にならないような注意点）は何ですか？

萩野さん

A. ひろばなどを運営する側は、その場所を色んな人が使えるようにすることが大事です。一つのルールで縛らず、いろいろな使い方ができるような仕組み・体制をつくることが重要です。一方、ひろばなどを使う側は、自分の活動を一度で終わらせず、次も続けられるように無理をしないことが大事です。一つずつ小さなハードルを越えるような成功体験を得られると、活動継続のモチベーションにもつながりますよ。

○コンセプトづくりについて

Q. これまで、薬師池四季彩の杜公園などのコンセプト作りをしてきたとのことですが、コンセプトを考える際、災害についても意識してきましたか？

A. 大事なのは、日常的に使われることです。日ごろから使われないと避難時にも役に立たないので、日ごろから使われようにするようなコンセプトをつくることが重要です。また、最近は「フェーズフリー」といって、防災目的だけのものをつくるのではなく、日ごろから使うものにしていく考え方も主流になってきています。

○在宅・避難所の体験・判断基準について

Q. 日常的にその場所を使っている、知っているという状態にするため、非常時に使うような道具・設備・空間を日常的に使っている事例やアイデアなど教えてください。

A. 避難時を想定して自治体で用意しているグッズなどは、防災イベントなどの時にしか手に取ることができません。そのため、例えば、キャンプ用品を用意し、それを普段から使えるようにしておくことが良いと思います。

コウダさん

Q. 将来、町三小跡地が避難施設となる場合、在宅避難とするか、避難施設に避難するか、迷った際の判断はどうしたらよいでしょうか。

A. 避難のタイミングは２段階あります。まず第１段階は、市が公表する災害情報。自分の住んでいる場所の５段階の避難レベルを確認します。避難レベルが高い場合は、レベル５の緊急安全確保になる前に、避難場所に避難します。
２段階目は、発災から状況が落ち着いた時に、自宅に戻って在宅避難か、避難施設にとどまって生活を続けるかを考えます。
また、家族がバラバラになることもあるので、家族であらかじめ災害時にどこに集合するかを決めておくことも大事ですね。

○車での避難生活について

Q. 車中泊はどこでできますか。また、車での避難生活は具体的にどのような生活となるのでしょうか。

A. まず、車中泊の前提として、緊急車両が通るような大きな道路では絶対に車を駐車してはいけないので、それは覚えておいてください。
過去の事例では、避難場所に近いところ、大きな公園の駐車場、スーパーの開放駐車場で車中泊して生活したことがありました。
また、実際に車中泊で生活を続けるのは難しいです。乗用車の場合、座席を倒してもフルフラットにならないので、快適にする秘訣としては座席と背もたれのシートの間をタオルで埋める。窓から冷気が入ってくるので窓をどう埋めるか、という工夫が大事です。

○まちさんプレイスのサポーターを増やすコツ

Q. 町三小跡地を考える際、行き慣れた場所にするという事が大事だという話がコウダさんからもありました。今後、まちさんプレイスに関わる人を増やしていくことが大事だと思いますが、興味を持ってもらったり、サポーターを増やすコツについて、萩野さんに伺いたいです。

A. 公園などを利用するのは、イベントの主催など、この場所を主体的に使う人ばかりではないですよね。薬師池公園西園は、公園に行くこと以外の目的をつくることがポイントでした。普段から良く立ち寄る施設が「そこにあるから気軽に行く」となるためには、どのような仕掛けが必要だろうという発想で、人が来やすい理由をたくさん作っていくことがよいと思います。

○讃岐先生のまとめ

萩野さん、コウダさんとの意見交換を踏まえ、日常から（仮称）まちさんプレイスに多くの人が関わってもらうことが重要だと、改めて認識できました。そうした人と人とのつながりを積み重ねることによって、（仮称）まちさんプレイスが作られ、いざという時にも避難施設として機能するようになるのだと思います。今後の展開を楽しみにしています！

讃岐先生

【子ども企画】

町三小跡地の日常と災害時はどう過ごす!？　実際にやってみよう！

子どもたちは、跡地の日常の使い方として、ひろばなどの地域の居場所をイメージして、そこで出来そうな遊びを実際にやってみる体験、災害時の使い方として、防災食づくりと防災用テントの組み立て体験を行いました。

◇ 空間体験 ～ひろばなどの地域の居場所をイメージして、思い思いに過ごせる空間を体験してみよう！～

日常の使い方として、ひろばなどの居場所をどんな使い方ができるかを子どもたちと考え、実際にやってみる空間を体験してもらいました。前回 10 月に行った「まちさんかいぎ」に引き続き、ダンボール遊びやドミノ倒し、読書など、子どもたちが思い思いに過ごせる空間体験となりました。

寒さなどお構いなしと言わんばかりに、ダンボールを限界まで積み上げては崩したり、切り貼りしてトンネルをつくってはくぐるなど、終始元気いっぱいな様子で遊ぶ子どもたち。一方、芝生に見立てたマットの上では、靴を脱いで自由に座ったり、くつろいだりしながら、ドミノ倒しや読書、塗り絵などを楽しんでいました。友達と話しながら取組んだり、時には黙々と集中していたりと、思い思いに過ごしている様子でした。

はつらつとしたダンボール遊びも、じっくり遊ぶその他の遊びも、どちらも子どもたちにとって大切な日常の過ごし方なのだと感じさせられました。そういったことができる居場所作りを、みんなで考えていければと思います。

◇防災体験 ～防災食の作り方を学び、食べてみよう！ 防災テントを組み立てよう！～

防災体験では、防災食づくりと防災テントの組み立てを行いました。防災食は、1 つのテーブルを囲み、市防災安全部防災課の職員が作り方を解説しながらアルファ化米の調理をしました。子どもたちは、一気に 50 食が作れるアルファ化米に興味津々。お湯を入れてかき混ぜる様子を、歓声を上げながら覗き込んでいました。

アルファ化米が出来上がるまでの間、避難施設で使用する防災テントの組み立てをみんなで行いました。２組に分かれ、子どもたちは協力し合いながら組み立てました。テントはものの数分で立ち上がり、だれがやっても簡単に建てられることが分かりました。テントの中に敷くエアマットに競争しながら空気を入れるなど、楽しみながら防災用テントについて学びました。完成したテントの中で寝転がった子どもたちは、「意外と寝られそう」といった感想も教えてくれました。

そんなことをしている間に防災食が完成！袋に入れて配られたアルファ化米をそれぞれでおにぎりにして、テントの中で食べました。アルファ化米とはいえ、出来立ては温かく、子どもたちは作ったおにぎりをぺろりと食べ、おかわりをしている子もいました。休憩時間には大人にもおにぎりを配り、参加者みんなで、防災食を食べる体験をしました。

子どもたちは、防災体験を通して、町三小が学校跡地になっても、引き続き避難施設であることを再認識できた時間となりました。

子どもたちにも感想を聞いてみよう！

◇ 活用に向けた沢山のヒント

大人の意見交換、子どもの体験がそれぞれ終了した後、全員で子どもたちの体験を振り返りました。すっかりお気に入りになった様子のテントの中から、体験した内容を大人に教えてくれました。

町三小跡地の日常と災害時を体験してみる、という目的で行った２つの体験ですが、楽しそうに過ごす子どもたちの姿を見ていると、跡地活用で目指すべき景色のようにも思えました。

町田市からのお知らせ

◇ コンセプトを形にしていくために

最後に、町三小跡地の検討を進めている市政策経営部企画政策課から、「来年度は基本計画を策定する予定。活用のイメージを具体化していくと、これまでとは違った視点で町三小跡地を考えることになる。コンセプトである『活動でみんながつながれる場　まちさんプレイス』をしっかりと頭に置きながら、町三小跡地ならではの場所ということを意識して検討を進めていきたい。そのためにも、今後も引き続き、みなさんと一緒に考えていきたい。」と参加者へメッセージをお伝えし、「まちさんかいぎ２」を締めくくりました。

お問い合わせ
町田市政策経営部企画政策課　公共施設再編担当
電話：042-724-2103　　メール：mcity2980@city.machida.tokyo.jp